

R4年度 がん検診精度管理事業(がん検診結果統一集計)

概要

市町村が実施した胃、子宮、肺、乳及び大腸の各がん検診の検査結果(一次検診及び精密検査)について、市町村及び各検診実施機関の精度管理水準を解析・評価し、検診の精度管理の向上を図る。
解析・評価結果を報告書として、各市町村へのフィードバックを行う。

調査対象年

令和4年7月に県が市町村へ以下の内容について調査を行った。

- 令和3年度がん検診実施体制及び一次検診受診状況
- 令和2年度がん検診受診者の精密検査受診状況

市町村からの相談

- 各がん検診での集計作業における相談

相談例

医療機関から報告のある胃がんX線検診の一次検診検査結果が「異常あり」でも、指示区分は「精検不要」の方がいます。また、一次検診検査結果が「その他の所見」で、指示区分が「要精検」の方がいます。どのような計上すればよいか。

- がん検診結果統一集計の集計作業の手引がほしい。

課題

- 検査結果が異常なしなのに要精密検査の指示、検査結果が異常ありなのに精密検査不要の指示がされる事例がある。
- 一次検診で、当該がん(疑い)の所見についても、要精密検査以外(要診察、要治療、要経過観察など)の指示がされる事例がある。
- 現在の集計様式の項目に関する手引がなく、市町村担当者の経験等に頼っている。

→ 検診と診療を区別できていない可能性あり

各市町村が作成している検診結果報告様式が統一されていないため、検査結果と指示がバラバラになってしまう

改善のポイント

- 一次検診では、当該がん(疑い)について要精密検査or精密検査不要のみで判断する。

あるべき姿

- がん検診結果(一次、精検)の正確な集計により、適切な精度管理が実施された「質の高い検診」を提供できる。



今後の方針等

来年度に向けて

- 現状の報告様式で市町村が統一した集計計上ができるように統一集計の手引を作成する。
- 手引配布(R5年夏ごろ) ※手引は市町村と医療機関に対して配布する
手引内容の周知(R5年夏～)
手引に基づく集計開始(R6年から)

来年度以降に向けて

- 県が、一次検診の結果報告様式を作成し、市町村へ提示することが必要か。
- 県が、がん検診の技術的指針を作成し、がん検診のあり方等を県、市町村、医療機関が共通認識を持って実施できるようにすることが必要か。

集計作業の統一化

手引作成

認識・様式の統一化

技術的指針・結果報告
様式作成

あるべき姿の達成